

[参考]

## 阪神南地区社会教育委員協議会 研修会の発表内容（案）

テーマ：「学校地域連携促進事業」の取り組みについて（発表者：古藪委員）

### 発表内容の構成

- 1 学校地域連携促進事業の目的など
- 2 平成22年度・23年度の取り組み状況について
- 3 事業の成果について
- 4 今後の課題について
- 5 他市と意見交換

### 具体的な内容

#### 1 学校地域連携促進事業の目的など

芦屋市では、兵庫県からの2年間の委託事業として、平成22年度から実施しています。

事業の目的としては、学校・家庭・地域が子どもの育成に係る教育目標や課題を共有し、効率的な学校支援活動を促進すること。また、地域が主体的に学校運営に参画し、地域に支えられる学校の在り方について実践研究を行うこととしています。

この事業のねらいは、①家庭・地域が力を合わせて学校を支援する中で、三者の連携強化を図り、学校を核とする安心安全の街づくりをすること。②学校は地域の力を借りてより良い教育環境を作り、家庭・地域は、学校に足を運ぶことで、学校の情報をより多く得ることができ、さらに自分が活躍する場を得ること。③子どもが、家庭・地域の方が学校を支援する姿を見て、自分たちがたくさんの方々大切に見守られていることに気づき、将来地域で活躍できる大人に育っていく素地ができること。それに向けて現在取り組んでいます。

#### 2 平成22年度・23年度の取り組み状況について

芦屋市では、芦屋市立精道小学校をモデル校として、事業を展開しております。「すまいるネット」という名称は、この事業の愛称名です。

すまいるネットの幹事会は、教育委員やPTA役員、コミスク役員、民生児童委員、福祉推進委員会代表等で構成される精道小学校の「開かれた学校推進委員会」を母体として運営しており、すまいるネットの事業についての相談・報告を受け、客観的な意見や評価をする役割をしています。

事務局は、教育委員会生涯学習課が行っており、すまいるネットのコーディネーターとしては、精道小学校児童の保護者で教育委員も勤めておられる方と元精道小学校教頭の2名で行っております。

①平成22年度の主な取り組みとしては、

- ・運動会の前日準備・後片付けの手伝い（ボランティア約70名参加）
- ・精道小学校地域連携促進協議会総会の開催  
（総会参加者は、学校評議委員5名、学校関係者2名、ボランティア・地域団体28名）
- ・ボランティアによる図書室の開室  
（12月13日～20日の開室、約30名参加）
- ・すまいるネット通信の発行  
（11月、2月）

②平成23年度の主な取り組みとしては、

- ・学校支援ボランティアの組織化  
→学校側に支援内容を聞き取り、図書・園芸・環境の3分野に重点をおき支援を実施。  
図書ボランティア・・・本の修繕廃棄、図書室の開室、環境整備等  
園芸ボランティア・・・花の手入れ、草抜き、苗の植え替え等  
環境ボランティア・・・校内清掃の手伝い等
- ・精道小学校地域連携促進協議会総会の開催（予定）
- ・すまいるネット通信の発行  
（7月、今後も学期に1回発行の予定）

### 3 事業の成果について

- ・運動会の準備・片付けや図書室の開室、本の修繕廃棄等の手伝いなどの機会を通じ、新しい支援者に参加してもらえ、学校をより身近に感じてもらえた。
- ・総会の開催やすまいるネット通信の発行により、様々な支援者や地域団体の意見を聞くことができ、学校・家庭・地域連携への共通認識を持つことが出来た。
- ・子どもたちも、親が学校に足を運んでいることに対して嬉しさや安心感を持つことができた。
- ・地域団体においても、学校内部で様々な地域団体関係者やPTA関係者

と共に活動することで、新しい意見交換の場となり、また学校運営に関しても一歩踏み込んだ関係を構築することが出来た。

- ・学校側から見た意見・感想

- ・地域側から見た意見・感想

#### 4 今後の課題について

- ・事業継続に向けた組織の在り方やコーディネーターの確保について  
→委託事業の終了及び市の財政的な措置も見込めない中で、事業継続していくために、どのような形で引き継いでいけるかを模索。

#### 5 他市と意見交換

以上

[参考]

<芦屋市 発表資料>

平成 23 年度

阪神南地区社会教育委員協議会 研修会

内容：「学校地域連携促進事業の取り組みについて」

発表者：芦屋市社会教育委員 古藪 令子

芦屋市社会教育委員 上月 敏子

日時：平成23年11月24日（木）

場所：芦屋市消防庁舎3階 多目的ホール

平成28年度 Smileねっと



学校・家庭・地域の連携をめざして  
精道小学校地域連携促進事業



「Smileねっと」とは

- 精道小学校地域連携促進事業の愛称  
児童会の子ども達が「Smileねっと」と命名  
マーク……事務局で考案




- 昨年度より2年間、「学校地域連携促進事業」の  
モデル校(県内で6校)  
⇒学校・家庭・地域の連携のあり方を模索

平成23年度 Smileねっと

学校・家庭・地域の連携をめざして  
精道小学校地域連携促進事業



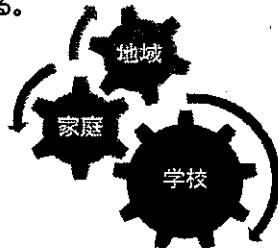

精道小学校地域連携促進事業の愛称  
児童会の子ども達が「Smileねっと」と命名  
マーク……事務局で考案



昨年度より2年間、「学校地域連携促進事業」の  
モデル校(県内で6校)  
→学校・家庭・地域の連携のあり方を模索

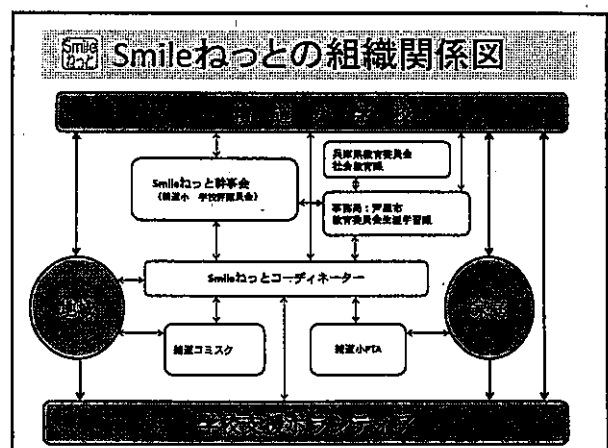
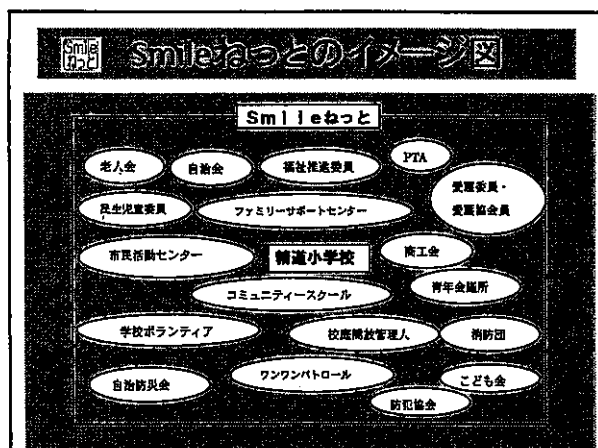
「Smileねっと」がめざすもの ①

家庭・地域が力を合わせて学校を支援する中で、  
三者の連携強化を図り、学校を核とする安心安全の  
街づくりをする。



「Smileねっと」がめざすもの ②

- 学校
  - 家庭・地域の力を借りてより良い教育環境を作ることができる。
- 家庭・地域
  - 学校に足を運ぶことで、学校の情報をより多く得ることができ、さらに自分が活躍する場を得ることができる。
- 子ども
  - 家庭・地域の方が学校に支援する姿を見て、自分たちがたくさんの方々に大切に见守られていることに気づき、将来地域で活躍できる大人に育っていく素地ができる。





## H22年度の主な取り組み

- 運動会前日準備・後片づけのお手伝い  
(延べ約70人参加)
- Smileねっと総会の開催(約40人参加)
- 「すまいるねっとつうしん」第1・2号発行  
(2号は新聞折り込み)
- 12/13～20 ボランティアによる図書室開室  
(約30人参加)



## H23年度の活動

- 学校支援ボランティアの登録(H23年9月現在)  
62人(保護者51人、地域11人)
- 図書ボランティア
- 園芸ボランティア
- 環境ボランティア
- 見守りアンケート調査
- 「すまいるねっとつうしん」の発行(年3回)
- Smileねっと総会の開催



## 各ボランティアの活動

- 図書ボランティア…図書室の開室(朝8:00～10:30)  
環境整備(書架整理・掲示等)  
新刊本の処理  
本の修繕や廃棄のお手伝い
- 園芸ボランティア…お花のお手入れ・草抜き・苗の植え付けのお手伝い
- 環境ボランティア…学校内をきれいにするお手伝い

\*いずれも、自分の都合に合わせて参加可能。  
モットー…「無理なく、楽しく、できることから」

## 図書ボランティア(図書電算化作業)

- 期間:2011年5/24～6/30
- ボランティア:地域・保護者 延べ約500人
- 古本の廃棄・本の修理・新刊本の処理  
バーコード貼り
- ボランティアさんの感想  
「おしゃべりしながら楽しく作業しました。たくさん  
の本に触れることができよかったです。」  
……等々。



図書ボランティア(図書電算化作業)



図書ボランティア(図書電算化作業)



図書ボランティア(図書電算化作業)



図書ボランティア(書架整理)



図書ボランティア(書架整理)



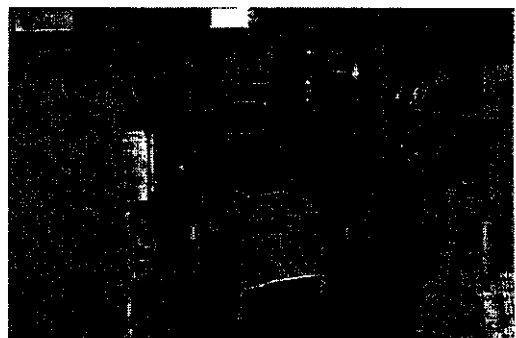
図書ボランティア(朝の図書室開室)



図書ボランティア(朝の図書室開室)



図書ボランティア(朝の図書室開室)





図書ボランティア(朝の図書室開室)



花いっぱい園芸活動(マリーゴールド植え付け)



花いっぱい園芸活動  
(マリーゴールド・ひまわりの植え付け)



花いっぱい園芸活動  
(マリーゴールド・ひまわりの植え付け)



花いっぱい園芸活動(マリーゴールド植え付け)



花いっぱい園芸活動(プランター清掃)



花いっぱい園芸活動(花壇の清掃)



花いっぱい園芸活動(花壇の清掃)



花いっぱい園芸活動(花壇の清掃)



環境ボランティア(運動会前日準備)



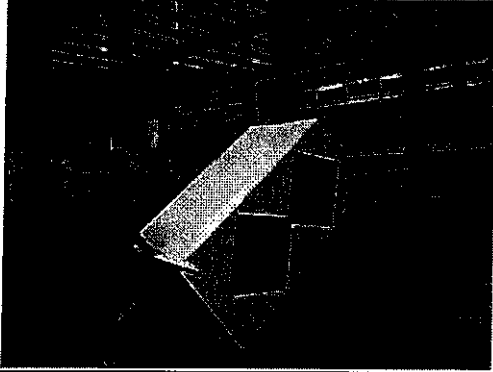
環境ボランティア(運動会前日準備)



環境ボランティア(運動会後片付け)



環境ボランティア(運動会后片付け)



環境ボランティア(運動会后片付け)



環境ボランティア(クリーン作戦)



環境ボランティア(クリーン作戦)



本事業の成果について

※学校側から見た成果

本事業の中で多くの小学生を足元として、また、多くの子供たちと関わり、活動を通して、子供たちの成長を支援することができた。

※活動のお知らせ 月刊「なつとつしん」の発行により、Smileなどの記事を掲載し、学校と地域の連携への共通認識を持つことができた。

※子ども達、親や地域の方が学校に足を運んで下さる機会が増え、交流が深まることも、大きな成果の一つである。



本事業の成果について

※家族側から見た成果

学校に足を運ぶことにより、学校と身近に感じることができ、子供たちの成長を支援することができた。また、子供たちの成長を支援することができた。


※地域側から見た成果

※地域側から見た成果  
この団体の活動により、Smileなどが新しい発見や気づきを生み出し、地域と学校との連携が深まることになった。

**Smile** **今後の課題と対策**  
(来年度に向けて)

- ・来年度以降事業継続に向けた組織のあり方


→開かれた学校評議委員会を今後もスマイルねっとの幹事会として位置づけ、今後も事業を継続していくことを確認。



**Smile** **今後の課題と対策**  
(来年度に向けて)

- ・事務局(今年度は生涯学習課)のあり方
- ・予算の確保

→まずは、Smileねっとと事業にかかる年度別の収支内訳をご確認ください。



**Smile** **Smileねっと 収支内訳**

平成22年度		平成23年度	
<b>収入</b>		<b>収入</b>	
委託料	100,000円	委託料	90,000円
<b>支出</b>		<b>支出</b>	
通信カラー用紙等	5,560円	通信カラー用紙等	3,400円
通信2号印刷費	47,250円	封筒・コピー用紙等	16,670円
(カラーA3・広告用紙)		USBメモリー	1,380円
通信2号新聞折り込み料	26,418円	郵送料	13,520円
封筒・コピー用紙等	10,567円		
郵送料	10,205円		
		(平成23年度の支出状況は、11月24日現在のものです)	

**Smile** **今後の課題と対策**  
(来年度に向けて)

- ・事務局(今年度は生涯学習課)のあり方
- ・予算の確保

→2年間培ってきた学校・家庭・地域のつながりを継続させるためにも、各団体の協力のもと事務局機能も含めて具体的な目標設定中です。

**Smile** **今後の課題と対策**  
(来年度に向けて)

- ・コーディネーターの安定的確保・研修

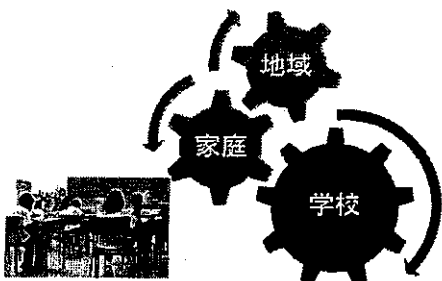
→具体策については検討中です。  
今後もスマイルねっどを広め継続していくには地域とのつながりが重要であり、その点からしても地域の方に担ってもらおうのが良いという意見が出ています。

**Smile** **今後の課題と対策**  
(来年度に向けて)

- ・ボランティアをどう拡大するか?
- ・学校支援のあり方
- ・地域の方が気軽に参加していただくには?

→子ども達を対象とした事業を優先す。  
・ボランティアの内訳としては保護者がほとんどであり地域住民の参加者が少ないのが現状。  
・何世代にもわたり精通小学校に通われるなど精通小学校に思い入れの深い家庭が多い地域、その方たちが参加しやすい時間帯や活動内容を考え、また各個人においても活動することで自己の存在意義を再認識してもらえるような結びつき強いネットワークを作っていく。

だからこそ今・・・学校・家庭・地域連携を  
100%の力から⇒120%の力へ



## 阪神南地区社会教育委員協議会 研修会の発表内容（案）

テーマ：学校地域連携「Smileねっと」の取り組みについて

（発表者： 委員・ 委員）

※昨年度は、古藪委員・上月委員に発表していただきました。

### 発表内容の構成

- 1 学校地域連携促進事業について（昨年度までの大まかな内容）
- 2 新体制での取り組みについて（平成24年度から独自で運営）
- 3 Smileねっと運営委員の思い
- 4 社会教育委員として、どのように連携していくべきか
- 5 質疑応答

### 具体的な内容

#### 1 学校地域連携促進事業の目的など

芦屋市では、兵庫県からの2年間の委託事業として、平成22年度、23年度に精道小学校をモデル校において実施しました。「Smileねっと」という名称は、この事業の愛称名です。

事業の目的としては、学校・家庭・地域が子どもの育成に係る教育目標や課題を共有し、効率的な学校支援活動を促進すること。また、地域が主体的に学校運営に参画し、地域に支えられる学校の在り方について実践研究を行いました。

この事業のねらいは、①家庭・地域が力を合わせて学校を支援する中で、三者の連携強化を図り、学校を核とする安心安全の街づくりをすること。②学校は地域の力を借りてより良い教育環境を作り、家庭・地域は、学校に足を運ぶことで、学校の情報をより多く得ることができ、さらに自分が活躍する場を得ること。③子どもが、家庭・地域の方が学校を支援する姿を見て、自分たちがたくさんの方々に大切に見守られていることに気づき、将来地域で活躍できる大人に育っていく素地ができること。それにとともに、2年間で以下のような取組を行いました。

## 2 平成22年度・23年度の取り組み状況について

組織としては、事務局を教育委員会生涯学習課が行い、学校やPTA、地域と調整するコーディネーターを精道小学校児童の保護者で教育委員も勤めておられる方と元精道小学校教頭の2名。また、教育委員やPTA役員、コミスク役員、民生児童委員、福祉推進委員会代表等で構成される精道小学校の「開かれた学校推進委員会」を母体としたすまいるねっと幹事会が、事業についての相談・報告を受け、客観的な意見や評価をし、事業を進めてまいりました。

### ①平成22年度の主な取り組みとしては、

- ・精道小学校地域連携促進協議会幹事会（Smileねっと幹事会）の開催（年3回）
- ・精道小学校地域連携促進協議会総会の開催
- ・運動会の前日準備・後片付けの手伝い
- ・ボランティアによる図書館開館
- ・すまいるネット通信の発行（2回）

### ②平成23年度の主な取り組みとしては、

- ア.「Smileねっと」幹事会の開催（6・9・12・3月）
- イ. 学校支援ボランティアの組織化：図書・園芸・環境の3分野でのボランティア募集→登録（5月）
- ウ. ボランティア合同説明会開催（5月）
- エ. 図書ボランティアの活動
  - a. 学校図書電算化に伴う作業（6・7月）
  - b. 学校図書館の書架整理（9・1月）
  - c. 学校図書館、朝の開館（週3回）
- オ. 園芸ボランティアの活動
  - a. 花の苗の植え付け（6・12・3月）
  - b. 花壇やプランターの整備（10・11月）  
\* 園芸委員会の子ども達と共に活動
- カ. 環境ボランティアの活動
  - a. 運動会の前日準備・後片付け（6月）
  - b. 校内クリーン作戦 7・9・10・11・12・2・3月（7・9月警報のため中止） \*子どもと一緒に大掃除
- キ. 「Smileねっと」総会の開催（11月）

- ク. 「すまいるねっとつうしん」発行 (7・12・3月)
  - ケ. 登下校見守り調査 (10~11月)
  - コ. ボランティア交流会 (12月)
  - サ. 水害に備える防災体験 (コミスクとの共催) (2月)
  - シ. 東日本大震災被災地支援 ベルマーク集計 (PTA との共催) (2月)
  - ス. 見守り情報交換会 (2月)
- \* 延べボランティア数・・・約 1,200 人

### 3 事業の成果について

#### (1) 学校側から見た成果

- ・ 保護者だけでなく地域の方にも学校に足を運んでいただくことにより、学校をより身近に感じてもらえ、さらに三者それぞれの意識向上・信頼関係の構築につながった。
- ・ 各活動のお知らせ・すまいるねっとつうしんの発行により、Smile ねっとのことを広く知っていただき、学校・家庭・地域連携への共通認識を持つことができた。
- ・ 子ども達は、親や地域の方が学校に足を運んで下さることに対して、嬉しさや安心感を持つことができ、より生き生きと活動できた。

#### (2) 家庭・地域側から見た成果

- ・ 学校に足を運ぶことによって学校をより身近に感じられた。また、教職員と顔を合わせる機会が増えたことにより、信頼関係が構築され、子どもを安心して学校に通わせることが出来た。
- ・ 地域団体においては、Smile ねっとが新しい意見交換の場となり、学校や保護者と一歩踏み込んだ関係を構築することができた。

### 4 今後の課題について

- ・ 組織のあり方
- ・ 予算の確保
- ・ コーディネーターの安定的確保
- ・ ボランティア意識向上のための研修
- ・ ボランティア拡大のための方策
- ・ 学校支援のメニュー拡充等
- ・ ボランティア保険



5 新体制での取り組みについて

委託事業としては、平成23年度で終了しましたが、「今後の課題」を受けて、Smileねっと独自でこのように取り組んでいます。

- ・組織のあり方→Smileねっと運営委員会の立上げ
- ・予算の確保→予算はPTAから支援
- ・コーディネーターの安定的確保      } →研修会を予定
- ・ボランティア意識向上のための研修
- ・ボランティア拡大のための方策→取り組みやすい時間帯等を設定するなど
- ・学校支援メニューの拡充等→新1年生給食支援ボランティア  
    図書開館日の増設  
    放課後こどもプラン事業教室型
- ・ボランティア保険→生涯学習課で支援

6 Smileねっと運営委員の思い

7 社会教育委員としてどのように連携していくか

8 質疑応答

以上